

# 憶北小学校

## 平成22年度 自己評価書及び学校関係者評価書

4段階評価    4 期待以上    3 ほぼ期待通り    2 やや期待を下回る    1 改善を要する

大項目	学校経営ビジョン	重点目標	具体的な目標	目標達成のための手段や数値目標	自己評価		学校の自己評価のコメント (結果の考察・分析及び改善策等)	学校関係者評価	学校関係者評価のコメント
					項目	総合			
知育	三二一 基本的な生活習慣・学習習慣の定着を図る。 授業の充実を図る。	学力向上	実質45分の授業の充実	一斉指導と個別指導の充実を図る	3	3	一斉指導の中で、個別指導が充実してきた。1時間の授業時間に机間指導での実態把握や個別指導を意図的に行うことができた。今後は、教師の発問・指示を的確にするなどして、効率的な一斉指導・個別指導を行っていく必要がある。	3	児童にメリハリのある学校生活が定着してきている。授業では、個別指導に力を入れている。学力の低い子どもへの指導がより充実すると更なる学力向上が期待できる。研究授業が年2回と行われ、成果が出ている。今後は、評価委員も積極的に研究授業を参観するようにしていきたい。
			研究授業を通しての授業力の向上	全教職員の研究授業を年間2回以上実施する。	4	4	年2回の研究授業を実施してきた。学年間、学級間での教材研究や児童理解も深まり、指導力の向上につながっている。		
			学力調査等で、県・全国平均よりアップ	CRT学力検査で全国平均以上の達成をめざす。	3	3	昨年度の達成の低い項目を復習したり、ドリルで習熟を図ったりして、日々の授業充実を図った。その結果、CRTテストでは、どの学年も全国平均・昨年度を上回り、成果が少しずつ表れている。		
徳育・体育	豊かな心・たくましい体の育成	基本的な生活習慣・学習習慣の定着	「憶北っ子当たり前のこと5カ条」の定着	「すすんであいさつをする。」の指導を徹底する。	4	4	各学級が毎週、たすきと鉢巻姿であいさつ運動を行い、あいさつの意識付けが高まってきている。また、地域であいさつをする児童が増えてきた。さらに、最近では、会釈を自らする児童が増えてきている。	4	地域でも進んであいさつする子どもが増えているが、まだ十分とはいえない。憶北っ子5カ条を定着させることで、評価が期待できる。憶北っ子5カ条が校内だけでなく、地域・家庭でも活かされ、生活マナーが身についていくことを期待する。また、家庭でおろそかになりがちな「しつけ」を集団生活の中で改めてルールとして定着させる取組みは大変よい。今後も継続しながら人づくりに取り組んでほしい。
				「はきものをならべる。」の指導を徹底する。	4		トイレのスリッパを並べる児童が増えてきた。次の人への思いやりが育ってきている。		
				「ろうか右側を歩く。」の指導を徹底する。	3		避難訓練や給食当番での集団移動で右側歩行はできるが、休み時間等では、徹底できていない。		
				「無言の場を守る。(集会活動、清掃)」の指導を徹底する。	4		無言の場が徹底されている。その成果として、黙って清掃する児童の姿に表れている。		
				「始まるの時刻を守る。」の指導を徹底する	4		始まるの時刻を守る指導が定着してきている。一時間一時間の授業を大事にする意識が高まっている。		

			話し合い活動を充実	聞き方名人「発表名人」の定着を図る。	4	4	校内研究の一貫としての「聞き方名人」や「発表名人」が定着し、話し合い活動が充実してきている。	4	<p>人の話が聞けることや意見を言えることは素晴らしいことである。「聞き方名人」や「発表名人」が定着することを期待している。</p> <p>学級集団の形成には係を役割分担した指導が大切である。係活動・当番活動がより充実することを期待している。特別支援教育の取組みは素晴らしいものがある。特に、個別の支援により児童・保護者への対応がしっかりできていることが評価できる。</p> <p>年齢が上がるにつれて本離れが進んでいるので、小学校段階での読書習慣を身につけてほしい。環境的には大変立派な図書室なので、より一層の活用してほしい。</p>			
			一人一人が生きる望ましい学級集団の形成	係活動・当番活動の充実と児童相互理解を図る	3	3	係り活動・当番活動をしっかりできるようになっている。後片付け・見守りがもう少しである。指導をしていきたい。					
			特別支援教育の実践	学級の中での特別支援教育の充実を図る。	4	4	特別支援教育は、個別の支援計画を作成し、コーディネーターと連携しながら支援を必要とする児童・保護者への対応・指導ができた。巡回相談もを行い、特別支援教育の充実を図っている。					
			読書活動の推進	1週間に1冊以上の本を読ませる。	3	3	週に一度の図書室利用が定着し、読書する児童が増え、昨年より貸出し数も増加している。今後は、高学年の読書への関心をより高めていく。					
			体力向上プランの全校的な実践	一人一人の運動の量を確保し、質を上げる体育の授業の充実を図る。	3	3	水泳や陸上運動などで個人差に応じた指導を行い、それぞれのレベルアップを図ることができた。「わくわく体操」を授業で毎時間実施している。体力と技能が向上している。	3	<p>「わくわく体操」は低学年には難しそうだが楽しく活動している。体力向上にはよい運動である。外遊びは体力向上、仲間意識を育てる上で大変よい取組である。昼休みの外遊びをもっと取り入れていくとより体力が向上すると考える。</p> <p>定期的な安全点検が学校での安心した生活につながっている。また、交通安全の指導をこれからも徹底することで、交通事故の防止に努めて欲しい。食育の授業は自分の命と関わりがあるので、今後も推進して欲しい。好き嫌いなく、残菜ゼロを目標にして取り組んで欲しい。</p>			
				外遊びを奨励し、運動の日常化を図る。	3		「みんなで遊ぶ日」を決めるなどして、外遊びを奨励してきた。昼休みに元気に遊ぶ姿が見られた。					
			保健安全指導の徹底	安全点検を確実に実施するなど保健安全の充実を図る。	4	4	安全点検を毎月実施している。修繕や改修処置を早急に行うことができた。施設面だけでなく、安全指導も実態に即して徹底して行き、安全への意識の高揚を図っていきたい。	4				
				給食指導や学級活動等を通して食育を充実する。	4		栄養職員と職員による食育の授業を実践した。食事の栄養等の意識を高めることができ、給食の残菜値も少なくなってきた。					
			地域連携	育の推進	家庭・地域連携による地域教育の推進	家庭・楯地域との連携	総合的な学習の時間等での地域人材の活用を図る。	3	3	1年では高齢者との交流、2年は芋づくり、3年はホテルの飼育や山崎十五夜踊り、4年では保育園や老人施設訪問、5年ではアイガモ農法による稲づくり、6年では国際ボランティアの協力による福祉学習をしてきた。各学年とも多彩な地域人材の活用を図ることができた。	3	1、2年は生活科で3年から6年まで、総合学習で地域の人と交流ができてきているのは、評価できる。地域との連携・情報がよかったと思う。大切なことなので、今後も継続して多彩な人材活用の活用を図ってほしい。